



岡山大学法学部だより



※ 本メールは法学部の教職員、在学生、卒業生および岡山大学法学部
ホームページから登録された方にお送りしています

第 120 号 (2016 年 3 月 27 日発行)
発行：岡山大学法学部 学部長室

卒業式を終えられたみなさん、ご卒業おめでとうございます。

○ 卒業生のみなさんへ

卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。こころよりお祝い申し上げます。

みなさんが入学されたとき、わたくしは学部長 1 年生を歩み始めました。そしてまた、みなさんが卒業されるときには学部長の歩みを終えることになりました。もともと、この 4 年は、わたくしにとっては 6 5 分の 4 年ですが、みなさんにとっては 2 2 分の 4 年であり、同じ 4 年でもその重みに圧倒的な違いがあります。しかも、みんさんは 4 年の間に成人になるという大きな節目も迎えられました。さぞかしこの 4 年間は将来にわたってみなさんの記憶に残る 4 年間になることでしょう。そのような貴重な 4 年間でわたくしどもの学部で送っていただいたことに、改めて感謝申し上げます。

更にまた、この 4 年間は、ほとんどのみなさんにとっては最後の修学期間でありました。みなさんは小中高等学校を経て大学に進まれましたが、ここまでは保護者のみなさまをはじめ、多くの方々の庇護の下に育てていただいたことかと思えます。この度の卒業は、そうしたひとのお世話になりながら歩み続けた人生に別れを告げ、独力で立ってひとの世話をする新たな段階に入り始めたことを意味するだろうと思えます。大学を離れ、大学の仲間たちからも離れてひとりになったとき、そっと卒業の意味を考えてみて下さい。

さて、わたくしは、これまで卒業生のみなさんに「共生」とか「知足」などといった言葉を贈る言葉として選んできましたが、最後の今回はいくらか堅過ぎるかも知れないのですが、「義を見て為さざるは、勇無きなり。」に決めたいと思えます。と言いますのも、わたくしが実行してきたからでは決してなく、現実はまだに逆で、未だに目ざすべき理想のひとつであり続けているからです。目先の利にばかり走り、義を疎かにするのが常であるからこそ、大切にしたいと考えるのです。

わたくしたちの法学部でともに学び、成長されて行ったみなさん、思いっきり自分の人生を歩んでみて下さい、後悔のないように。

法学部長 小山正善